



チャウイ・キムフオ君 12歳 (事故当時)

友だちと家の近くにハンティングに出ているときに地雷原のサインを発見。しかしその意味を十分理解できず、地雷原に足を踏み入れ爆発。左膝より先を失った。

バットンバン州、プノンプルック郡、ピッチチェンダコミュニティ、ピッチチェンダ村。この村にはタイとの国境ゲートがあり、出稼ぎで行き来する労働者や物資を運ぶトラックでいつもにぎやかで、小さく粗末ではあるがホテルもある。

キムフオ君の家はその村のはずれの静かな農村部に位置している。カンボジアの地雷事故の多くはタイとの国境の近くで起こっているが、それだけ埋められている地雷の数が多いということである。



ピッチチェンダ村の国境ゲート。外国人の通行はできない。



地雷原であることを示すドクロマークの標識。

2007年2月14日午後、キムフオ君は仲の良い友達に誘われてハンティングに出かけた。タイ国境で山や森の多いこの地区には野生動物が多いのだ。家のすぐそばの茂みの中に入ろうとした時、キムフオ君は赤いドクロマークがあるのに気が付いた。それはそれ以上その先には行けないのだということを意味していることは知っていた。でも茂みには誰かがそれまで歩いたことでできたように思われる獣道のようなものがあり、はじめての道ではあったが特に不安は覚えず、むしろ興味を持って進んでいった。そして勢いよく走っていたキムフオ君の左足の下にちょうど地雷があったのだ。一瞬のうちに爆風がキムフオ君を飲みこんだ。

倒れたキムフオ君は血にまみれ、原型を失った自分の左足を見て、怖くなったという。気を失いはしなかったのですぐに泣き喚いて助けを求めた。事故直後、現場が家に近かったこともあり、即座に助けが来て、地雷撤去団体 C M A C の 4 W D でバットンバンの救急病院 EMERGENCY (イタリアの NGO) へと運ばれた。踏んだ地雷はタイプ 7 2 型。友達に怪我は無かった。現場近くでは地雷撤去団体のヘイロートラストが地雷の撤去活動をしている最中だった。病院には 1 ヶ月ほど入院し、その後義足の提供とリハビリを行ない、自宅に戻った。

キムフオ君は小学校 1 年生。学校に事故後も通っているが、義足を装着しての歩行は困難で装着部分が痛むという。そして学校以外にはなにかが無い限り、特に家から外に出ないようになった。それは歩行が困難なのと、足の無い自分を見る周りの目が気になるからだという。キムフオ君は近所の子ども達から「チュンピカ！（障害者）」と呼ばれる度に怒りをあらわにしているのだ。



事故を振りかえるキムフオ君



キムフオ君のお母さんと妹たち。

キムフオ君の家族は 7 人。父が 36 歳で母は 36 歳。キムフオ君は上から 2 番目の子である。お母さんに事故後のことについてお聞きした。「事故現場が近くですぐに事故が起こったことを知りましたが、息子が退院するまで、この上なく悲しくて、心配しました。そして息子の将来のことを考えるととても不安になりました。今は息子を毎日学校まで送って行ってあげています。そして息子の将来は息子の意思に任せたいと思っています。息子がもし『勉強をやめてどこかの NGO で職業訓練を受けたい』と言えばそれがうまくいくように背中を押してあげたいです」とおっしゃった。家計の問題については、「息子の将来が本当に心配です。本当は高校まで行かせてやりたいと思っていますが、家が貧しくてそれ所ではないです。農業をしています、畑は親戚のもので私達の土地ではないのです。農業の他には夫が日雇いで 1 日 6000R の仕事をしていますが、取るに足りません。」とおっしゃった。

キムフオ君が事故にあった頃、ちょうど村では地雷撤去団体のヘイロートラストが撤去作業をしていたという。以前は被害者こそあまり出なかったものの、家の周りは全て地雷原であったそうだ。今は撤去活動が完了しており、地雷はないという。家のすぐ隣には、地雷撤去が完了したことを表す青い看板が建てられていた。この看板は赤いドクロマークの標識同様、タイ国境沿いに多く立てられている。



地雷撤去が完了したことを示す青い看板。



ラジオを聴いて将来のために頑張る決意をしたキムフオ君

CMCのラジオ「VOICE OF HEART」をキムフオ君は今年2回聴いており、特に詩のコーナーでは涙を流して聴いていたという。それは障害者になったことの悲しさと、将来への不安がそうさせるのでは、と母親は語る。これからもかかさず聴きたい、とキムフオ君。我々ラジオ製作側としてはとても嬉しく感じた。

キムフオ君にとって今一番楽しい事は学校で勉強をすることだそうだ。そして将来の夢は、コムリエン（近くの街）でバイク修理工になることと、キノコ栽培の仕事をする事。「だから勉強を頑張りたい。」と語った。



キムフオ君の住んでいる家。一家の唯一の財産。



キムフオ君の義足と松葉杖

この事故の悲しいところは、サインの立てられた地雷原のなかで事故が起こったことである。それは子ども達が十分にそのサインの意味が理解できなかったことによる。カンボジアではサインがあるところだけが地雷原ではない。その場所で過去に地雷被害者が出たか、地雷が発見されたという事実があつてはじめて地雷撤去機関に地雷原と認定され、サインが立てられる。だからカンボジア国内のどの場所も、例えサインがなくても、100%安全とは言いきれないのだ。むしろ、サインの無いところでの事故の方が統計を見ても、圧倒的に多いのだ。村人はサインのある場所だけが地雷原であり、危険だという認識をもっていることが多い。それだけに、サインのある地雷原で事故が起こってしまったのは非常に残念であり、いかに地雷回避教育が重要であるかが分かる。